

教育研究所だより

No.216号 令和元年11月20日(水)

【発行者】守山市教育研究所 所長 西川 典子

守山市勝部三丁目9番1号(守山市生涯学習・教育支援センター 愛称:エルセンター 3・4階)

TEL:077-583-4217 FAX:077-583-4237

E-mail:kyoikukenkyl@city.moriyama.lg.jp

HP:http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenkyl_index.html

「ふだん」と「まさか」

矢守 克也(京都大学防災研究所・教授)

「野洲川放水通水40周年記念事業 いのちを守る 自主防災シンポジウム」において、矢守 克也 氏に「いつ、どこへ逃げればよいのか ～近年の豪雨災害に学ぶ 最新避難術～」と題して基調講演をいただきました。

(日時:2019/9/15 会場:守山市民ホール 大ホール)

「教育研究所だより No216」では、防災・減災について日頃感じていらっしゃることに付いてご寄稿をいただきました。



昭和28年洲本町地先の浸水時の様子

「ふだん」と「まさか」。言ってみれば日常時と非常時ということですから、この両者は、まったくちがう性質をもっていて、一見すると無関係のように思えます。

しかし、案外そうでもないかもしれません。たとえば、防災業界では、「ふだん」できないことは「まさか」のときにもできませんよ、とよく言われます。「ふだん」歯が立たない難問が、試験の時に限ってすらすら解けることがないのも同様です。「ふだん」が「まさか」のときの

パフォーマンスに影響するという意味で、両者は関係し合っています。

あるいは、この川は絶対にあふれない、この地方には大きな地震はない、などと「ふだん」強く思い込んでいればいるほど「まさか」が起こってしまったときの驚き——「想定外だ!」——は大きくなります。「ふだん」の油断が「まさか」の衝撃を高めているという意味で、やはり両者は関係し合っています。

筆者は、十五年ほど前、『生活防災』という本を書きました。防災は特別なことではない、生活(「ふだん」の暮らし)そのものが、防災(「まさか」のための備え)になるような、そんな「生活=防災」を目指しましょう、という趣旨でした。

近年の被災地に、よいお手本がいくつかあります。たとえば、東日本大震災の被災地に、「早足散歩」を日課にしていた保育所がありました。毎日のようにルートを変えながら、保育所の周辺に散歩に行くのです。歩ける年齢の子どもは早足で、より小さな子どもは保育士さんがおんぶするなどします。この「早足散歩」、実は、海岸近くに位置していた保育所の津波避難対策(兼 子どもの健康増進・地域の人たちとの交流)だったのです。あの日、保育所の建物が跡形もなく流出するほどの巨大な津波に見舞われながら、この保育所では、一人の犠牲者もなく、全員が高台へと避難しました。

防災・減災とは、結局、いかにして「ふだん」と「まさか」を上手につなぐか、ということに尽きます。だれよりも自分自身が一番よく知っている「ふだん」に関わることでですから、専門家に任せておけばよいとはなりません。「ふだん」の中に「まさか」を意識した仕掛けを組み込むためのアイデアを一人一人が考え実行することが大切だと思います。



今年度の研究から



指導力向上に関する研究 1

「教員の教育相談的資質の向上をめざして」

昨年度の研究では、子ども理解を進めるための教育相談アンケート（共通アンケート）の作成と活用を試みた。その結果、教員と子どもとのコミュニケーションが深まり、教育相談活動を活性化することができた。一方、教育相談に関する基礎的な知識やスキルをさらに向上させる必要があること、複雑化する問題に対応するために SC(スクールカウンセラー)や SSW(スクールソーシャルワーカー)などの援助者とうまく連携する力が重要であることなどがわかった。

そこで今年度は、研究協力員（各校1名）による事例検討会を重ね、指導講師（立命館大学大学院 春日井敏之教授）から助言をいただきながら、教育相談に関する知識やスキルの向上と、援助者を効果的に活用する力の向上をめざした取組を行っている。

《事例検討会の様子》



今後、研究協力員の学びが各校に広がっていくことを期待している。

担当者：係長 植村有子

指導力向上に関する研究 2

「音声から文字への滑らかな接続をめざした

小学校外国語の授業づくり

～外国語教育における小中連携の実践～

来年度より小学校において新学習指導要領が全面実施される。教科化される高学年の外国語の授業において、音声から文字への滑らかな接続をめざし、どのような指導の手立てが効果的か実践を通し、考察している。また、中学校教員が小学校外国語の授業について、学習内容や活動内容、児童の実態を知り、中学校外国語科へつなげるためにも小中連携は必要であると考え。そのため今年度の研究授業では、各中学校区別に中学校教員と小学校の学級担任が共に指導案から検討し、TT(チームティーチング)で授業を行うなど交流しながら、互いに外国語の授業の進め方を学んでいる。指導講師には関西学院大学 泉恵美子教授を招き、助言をいただいている。

《TTでの授業の様子》 《指導案検討会の様子》



【今後の予定】

12月6日（金）13:30 受付 13:45～ [5校時]

守山北中学校区における研究授業（河西小にて）

担当者：研究員 三輪さおり

不登校や子育てに関するお悩みをご相談ください

学校へ行けなくなつて...



友だちとはどうなのかしら？

＜面接相談・電話相談＞

面談や電話で、不登校や行きしぶり、子育てに関する不安や悩みの解決に向けて、ともに考えていきます。また、必要に応じて学校や園などとも連携します。

その他、お子さん自身の面接相談も行っています。面接相談をご希望の場合は、電話にてご予約ください。（午前9時から午後5時まで 月曜日から金曜日※祝日は除く）

【相談・問い合わせ先 583-4237】